

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 261 号	氏名	小武家 優子
学位審査委員	主査	高村 昇	
	副査	進藤 裕幸	
	副査	中園 一郎	
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価 本研究は、地域在住高齢者において ADL の指標となる「椅子からの立ち上がり困難」を訴える者について、関連する要因の同定を検討したものであり、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2. 研究手法に関する評価 住民基本健診に参加した地域在住の 65 歳以上の高齢者において、主観的な関節痛や咀嚼能力等について聴取し、さらに年齢や肥満といった健診で得られる基本的属性等ともあわせて、介護予防における生活機能評価項目の一つである「椅子からの立ち上がり困難」との関連について統計学的解析を行い検討したもので、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3. 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、地域在住高齢者において、「椅子からの立ち上がり困難」は、年齢、肥満、関節痛それに咀嚼能力と関連していた。この結果は、介護予防における運動器の機能向上、栄養改善、口腔機能の向上の三位一体の活用への取り組みが重要であることを示すものであり、今後の介護予防プログラムの推進に寄与する可能性が示された意義深い研究である。</p> <p>以上のように本研究は、地域在住高齢者における今後の介護予防のあり方について貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			